

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 キッズサポートみらい2		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日		～ 2025年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数) 8人
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日		～ 2025年 11月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能事業所でワンフロアに見通せるような配置で支援室があり、放デイの職員との連携もしやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子や変化にすぐ気づけるように意識している。 ・情報共有しやすい環境を活かし、日常的に声掛け・相談を行っている。 ・放デイの利用を見据え、環境や関わり方に一貫性をもたせるよう意識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同ミーティングを定期的に行い、支援方針の共有や統一を図る。 ・就学、進級を見据えた支援内容の検討を行い、切れ目のない支援の充実に努める。
2	多職種による連携	それぞれの立場からの視点での意見をすり合わせていき、よりよい支援ができるよう取り組んでいる。	専門による研修等
3	給食提供ができること。	昼食時、給食提供を行い、栄養バランスへの配慮に加え、食育の観点から食事のマナーや集団で食べる経験を大切にしている。利用児の特性や体調に応じた支援を行い、安心して食事に取り組める環境づくりを行っている。	食育の視点をさらに深め、食材や食事内容について簡単な声掛けや説明を取り入れるなど、利用児が食に関心を持てる取り組みを行っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関から支援室までが階段。環境整備するにしてもすぐにはできない。	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の構造上バリアフリー化が難しい状況にある。 ・物理的な環境改善について、段階的な対応とならざるを得ない現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に合わせた高さの手すりの設置や滑り止めの設置が必要。 ・安全確保を最優先とし、職員配置や見守り体制を工夫していく。
2			
3			